

カイコの飼育①

【6月】5歳児がカイコの飼育を始めました。



本当にここから
出てくるの？

小さいね

一人一匹ずつ、手作りの飼育ケースに入れて、自分で育てました。毎朝、園庭の桑の葉をとり、餌をあげ、フン掃除も行いました。



いっぱい食べて
大きくなあれ！

【7月】カイコが繭をつくりはじめました



日々、愛着が湧いてくるカイコが繭になってくれて嬉しい気持ちと同時に、「寂しい」という声も聞かれました。

3歳児・4歳児の子ども達もカイコを見るのが大好き。「白いね」「かわいいね」と飼育ケースを上から下からと覗き、成長に興味津々でした。

フワフワ
だね！



カイコは、成虫になって蛾になると餌を食べられず、1週間経つと死んでしまいます。先生と子ども達みんな、繭をどうしていくか何度も話し合い、カイコの命をいただき、繭の糸を紡ぎ作品をつくることになりました。

カイコの飼育②

【12月】カイコの繭から糸を紡ぎました

繭をお湯に浸し、繭の先から出た糸を指先を使って、撚り合わせて糸を紡いでいきます。



友達と協力して少しずつ糸紡いでいきました。



いっぱい伸びてきた!



【1月】喜光寺へ奉納しました



心を込めて紡いだ糸で「ランプシェード」をつくりました。

大切な命でつくられたものを大事にさせていただきます。



みんなの思いがたくさん詰まったランプシェードを受け取ってくださった副住職さんは、子ども達が、命をいたわり、感謝の気持ちをもつことを褒めてくださいました。



蚕の飼育を通して、生き物の命あるものへのいたわりに気付いたり、昔の人に思いを馳せながら、自分たちの生活と結び付けて考えたりすることで、周りへの感謝の気持ちや命の大切さを改めて感じることができ、子ども達の豊かな心の育ちへとつながっています。